

それぞれの個性を生かして

会津若松ザベリオ学園中学校 1年 野地 咲乃

「あなたにある人権は、なんですか？」もしも今、みなさんがそう聞かれたら、どう答えますか。

私が思う「自分にある人権」、それは、自分が思ったこと、好きなこと、嫌いなもの。何でも自分の意見を言えることだと思います。

まず、そもそも人権とは何でしょう。それは、「人が幸せに生きるための権利」のこと。お互いが自分と違うところも認め合ったり、思いやりの気持ちを持つことが、人権にとって大切なものだそうです。また、「いじめ」は人権の問題の一つでもあります。現在でもそれはまだあります。「あつてはならないのに。」そう私が強く思うわけには理由があります。

それは、私が小学校に入学して間もないころ。私はその「いじめ」にあったことがあります。幼稚園から仲が良かった友達とお昼休み、外でおにごっこをしていたときでした。

「まぜて。」私は「いいよ。一緒に遊ぼう。」と言おうとしたそのときです。一人の友達が、

「嫌だ。だつてお前足おそいもん。」

とその子に言ったのです。すると、あきらめたのか、とても悲しそうにしながら教室へ戻っていきました。私は、

「あの子も入れてあげようよ。お願い。」

と他のみんなに頼みました。すると、

「咲乃ちゃん、あの子の味方するの？」

と少し怒ったような雰囲気でも仲間はずれにされ、他の人達で楽しそうに遊んでいました。その日からです。「いじめ」が始まったのは。何日かたち、また一緒に遊ぼうと声をかけると、無視されるようになりました。とても悲しかったです。すると一人の男の子が私に話しかけてきました。

「君、一人？一緒に遊ばない？」

たったその一言でも、私はとても救われました。その男の子と気がつけばとても仲良くなっていて、毎日一緒に遊んだり、話したりしていました。でも、その年の授業参観。私は父と母が来てくれました。初めての授業参観だったので少しきん張しながら楽しく授業をし、明日も学校楽しみだなと思いながら帰る

うとするときでした。仲間はずれにした子が聞いてきました。

「お前のお父さん外国人？お前ハーフ？」

そう聞かれるのには理由がありました。とても信じられないと思いますが、私の父は外国人でもハーフでもないのに、目が緑色なのです。

「ううん。違うよ。私のパパ日本人だよ。」そう答えてもムダでした。勝手にその誤解はいろいろな人に広められました。また、以前よりもひどくいじめられました。男子からは「咲乃菌！」と毎日言われました。しかし、私と仲良くしてくれた男の子は言いました。

「いいんじゃない、みんなと違ってても。必ずだれかと同じじゃなくてもいいじゃん。」私はとても嬉しかったです。次の日から私はいじめられても、何と言われようとも何も思わなくなりました。他にいじめられている子がいたら、進んで助けるようになりました。自分の行動を少し変えたことで、少しずつ友達も増えました。今でも、その子が言ってくれた言葉は忘れられません。

私は今中学生になり、今までと違う初めての人が多いなか、「だれかと同じじゃなくてもいい」。そう思いながら楽しく人と関わり合い、生活しています。

世界には、さまざまな人がいます。肌の色が違う人。かみの毛や目の色が違う人。または障害がある人など、私たちとは違う人がたくさんいます。でも、それはその人にしかない、他の人にはない一つの「個性」なのです。それをヘンにからかったりすることで命を落とす人もいます。それをなくすために「人権」はあるのだと思います。他の人と違っててもいいのです。「個性」なのですから。

今、いじめられていて「死」を選ぼうとしている人へ。「絶対に死ぬな！」とは言いません。しかし、本当に死んで良いのですか？生きていたら何か変えられるかもしれません。自分と他の人と違ってても、生き方が違ってても良いのです。強く生きてください。

もしも今、だれかをいじめていたり、傷つけている人へ。あなたが言ったその一言で、あなたがとった行動でだれかが死のうとしているかもしれません。どうか、自分と違うところも認めてみてください。あなたも他の人とは違うところがあると思います。考え直して行動してみてください。

こんな私が言って「お前なんか知らないくせに」と思うかもしれませんが。でも、この言葉がだれか一人でも響いてくれたら嬉しいです。これから未来へといくうちに「いじめ」がなくなることを、どんな人でも認められる世界になることを願います。みなさんにもある個性や人権。大切に生きてください。